非認知能力の視点から読み解く
幼児教育と小学校教育をつなげるヒント集

架け橋期事例集

きらり

群馬県総合教育センター
幼児教育センター

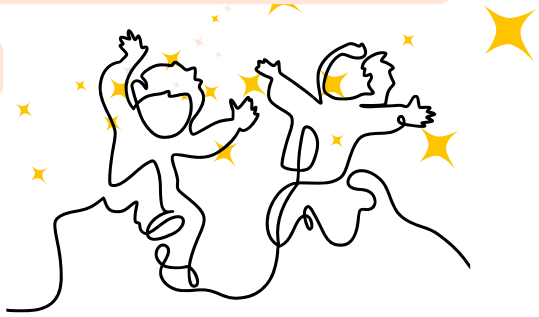
架け橋期事例集「きらり」について

非認知能力は、教師や大人から与えられるものではなく、子供たちに生まれながらにして内在している心理的な働きです。それらは一人一人異なり、子供たちが安心できる環境の中で、のびのびと自己発揮していく過程で育まれていきます。

架け橋期事例集「きらり」では、幼児教育施設の年長児と、小学校一年生の日々の姿を観察・分析し、そこで発揮されているであろう非認知能力についてまとめています。

日々の生活の中で表れた子供たちの「きらり」と光る姿を、非認知能力を視点として多面的に分析し、内面理解を進めました。

子供の姿を通して日々の教育を振り返り、教師としての関わり方や、環境の構成を見直すきっかけとして本事例集を活用していただければと思います。



架け橋期事例集「きらり」で使用している非認知能力項目について

本事例集で使用する非認知能力の項目は以下の図のとおりです。架け橋期の子供たち（年長児から小学校一年生）で見られるであろう非認知能力に焦点を当てています。

このような非認知能力が発揮される基盤となるのが、子供が安心できる教師との関係「アタッチメント」や温かく支援的な雰囲気づくり「風土づくり」です。

また、これらの非認知能力は、子供の「内発的動機付け」に基づいた活動の中で発揮されていくと考えます。

自己に関わる心	感受性	諸感覚を通して環境から刺激を受け、驚きや感動を見いだす。
	好奇心	ものごとにおもしろさを見いだし、興味をもつ。
	探求心・挑戦意欲	自らやりたいことを見いだし、積極的に環境に関わろうとする。
	自立心・主体性	やりたいことを自分で決めて、自分の力で取り組もうとする。
	自制心	自分の気持ちや感情と向き合おうとする。
	自信・自尊心	「自分ならできる」という自信をもってものごとに取り組もうとする。
	楽観性	目的の達成に向けて、前向きで楽観的な期待をもつ。
	目標への情熱・粘り強さ	情熱をもち、うまくいかないことがあっても諦めずにやり続けようとする。
	想像性	心の中のイメージを言葉や動き等で表現したり、形にしたりしようとする。
社会性に関わる心	心の理解能力	相手の気持ちや状況を理解しようとする。
	共感性・思いやり	困っている友達や泣いている友達の気持ちに寄り添い、助けようとする。
	道徳性・規範意識	よいことと、悪いことを自分なりに判断し、正しいと思う行動をとろうとする。
	コミュニケーション力	言葉や動き等を通して、相手に思いを伝えたり相手の思いを理解しようとしたりする。
	協調性・協同性	共通の目的の実現に向けて、友達と一緒に考えたり、工夫したり、協力したりしようとする。

内発的動機付け

アタッチメント・風土づくり

架け橋期事例集「きらり」の項目について

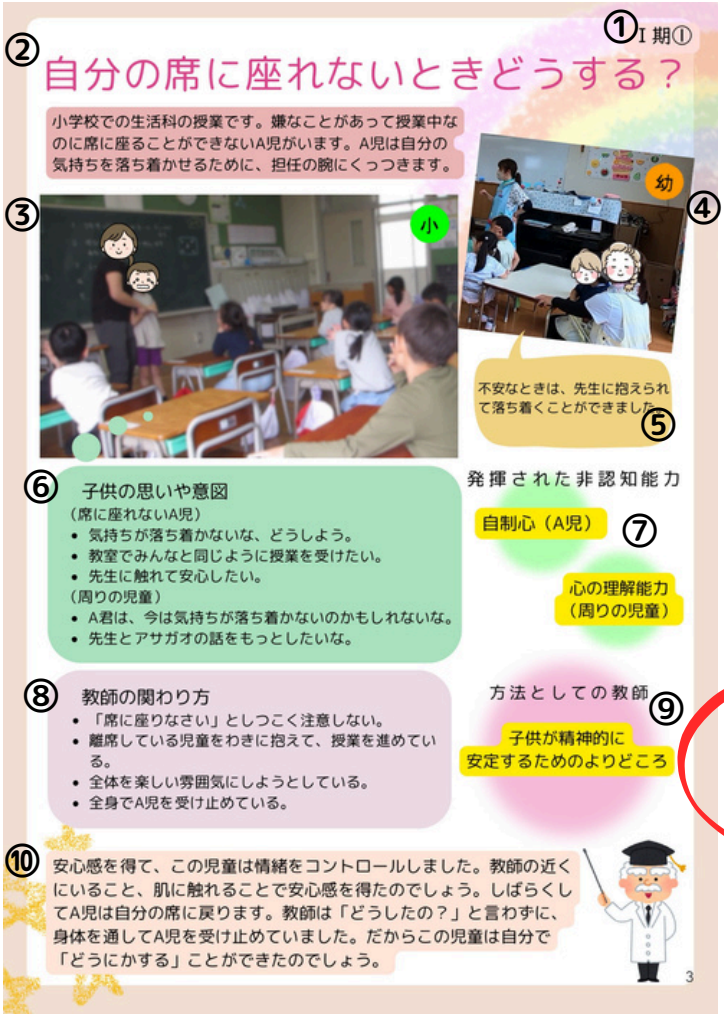
② タイトル＆子供の様子
事例の詳細

③ 写真
事例の際の小学校もしくは園の
子供たちの画像

⑥ 子供の思いや意図
事例の場面の子供たちの思いや意図

⑧ 教師の関わり方
事例の場面の教師の様子や
子供への関わり

⑩ 事例の分析



① 期
架け橋期のカリキュラムにおいて
どの期にあたるか
※子供の発達に目を向けて、一年間を５つの期に分けて捉えている

④⑤ 写真＆子供の様子
③の姿と関係する小学校もしくは
園の子供たちの画像とその際の様子

⑦ 発揮された非認知能力
事例の場面から読み取った
子供たちが発揮している非認知能力

⑨ 方法としての教師
教師の関わり方について、ねらいに向かうための手立てとしての教師の在り方・教育の手段としての教師の存在に着目して整理したもの

方法としての教師について

幼稚園教育要領解説には、下記のような教師の役割が示されています。これらは小学校以降の教育においても、子供たちが非認知能力を発揮するための重要な環境の一つであると言えます。これらの教師の役割を「方法としての教師」と呼び、事例集に記載しています。

「方法としての教師」とは、子供がねらいに向かうための手立てとしての教師の在り方であり、教育の手段としての教師の存在とも言えます。「方法としての教師」を意識することで、子供たちが非認知能力を発揮する姿をありのままに受け止めることができると考えます。

幼稚園等における教師の役割

- 幼児が行っている活動の理解者
- 幼児との共同作業者
- 幼児と共鳴する者
- 憧れを形成するモデル
- 遊びの援助者
- 幼児が精神的に安定するためのよりどころ

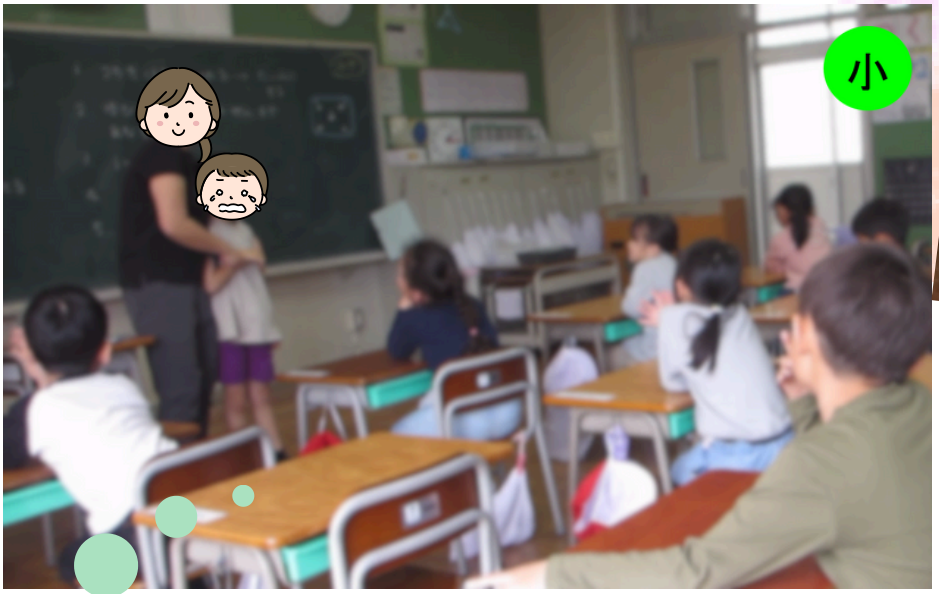
出典：幼稚園教育要領解説

方法としての教師

♠ 子供の活動の意味を理解する
♪ 子供の目線に立つ
♥ 思いに共感し共鳴する
★ 学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる
◆ 必要な人に対して必要なときに必要な援助を行う
◎ 子供が精神的に安定するためのよりどころ

自分の席に座れないときどうする？

小学校での生活科の授業です。嫌なことがあって授業中なのに席に座ることができないA児がいます。A児は自分の気持ちを落ち着かせるために、担任の腕にくっつきます。



不安なときは、先生に抱えられて落ち着くことができました。

子供の思いや意図

（席に座れないA児）
- 気持ちが落ち着かないな、どうしよう。
- 教室でみんなと同じように授業を受けたい。
- 先生に触れて安心したい。

（周りの児童）
- A君は、今は気持ちが落ち着かないのかもしれないな。
- 先生とアサガオの話をもっとしたいな。

発揮された非認知能力

自制心（A児）

心の理解能力（周りの児童）

教師の関わり方

- 「席に座りなさい」としつこく注意しない。
- 離席している児童をわきに抱えて、授業を進めている。
- 全体を楽しい雰囲気にしようとしている。
- 全身でA児を受け止めている。

方法としての教師

子供が精神的に安定するためのよりどころ

安心感を得て、この児童は情緒をコントロールしました。教師の近くにいること、肌に触れることで安心感を得たのでしょう。しばらくしてA児は自分の席に戻ります。教師は「どうしたの？」と言わずに、身体を通してA児を受け止めていました。だからこの児童は自分で「どうにかする」ことができたのでしょう。

本っておもしろいな

保育室でカブトムシの本を囲みながら、自分が飼っているカブトムシの話を思い思いにしています。ある園児が本の中を指さして、「これは、がいこくにすんでいる」と言いました。先生は「本当だ！オーストラリアって書いてある！」と驚いて言った後、「オーストラリアって国にいるんだって、どこだろうね」と話しています。

20分休みに児童が集まって、一冊の本を読んでいます。思い思いに自分の知っていることを伝え合いながら読んでいます。

子供の思いや意図

- 新しいことを知りたいな。
- 自分が知っていることをみんなに教えたいな。
- みんなで読むと楽しいな。

発揮された非認知能力

好奇心

探求心・挑戦意欲

教師の関わり方

- 自分で読まず、子供たちがページをめくり読み進めるのを待っている。
- 子供の発言を聞いて「本当だ！（ページに出てくる昆虫は）みんな外国に住んでいるんだね」と驚いている。
- 「これってみんなオスなの？」と写真を見ながら子供たちに聞いている。

方法としての教師

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

思いに共感し共鳴する

「一緒に悩む」「できない人になる」「分からない人になる」などの教師の役割は、子供の思考を促します。子供に寄り添うことで、子供同士の関わりも促すことができるでしょう。一緒に驚いたり感動したりすることが発見の喜びを共有することにつながるような気がします。「教えないスキル」です。

お姉ちゃんに会えたよ

入学して二週間がたちました。今日は20分休みに、一年生が初めて外に出て遊びます。お兄さんやお姉さんが次々に会いにやってきて、一緒に遊び始めます。一年生も上級生もみんなとても嬉しそうです。

登園後、荷物の片付けが済んだらすぐに園庭に出て遊び始めます。異年齢の子供たちが一緒に遊んでいます。

子供の思いや意図

（一年生）

- 休み時間に校庭で遊べて嬉しいな。
- 校庭で友達と体を動かして思い切り遊びたい。
- どんな遊具で遊ぼうかな。
- お兄ちゃんやお姉ちゃんに会えるといいな。

（上級生）

- 一年生と一緒に遊べるのが楽しみ。
- 校庭での楽しい遊び方を教えてあげたい。
- 学校ではどんな様子で過ごしているのか気になる。

発揮された非認知能力

好奇心（一年生）

道徳性・規範意識（上級生）

共感性・思いやり（上級生）

「学校生活に慣れるまで、入学後しばらくは休み時間を室内で過ごす」という小学校が多くあります。でも、上級生の協力があれば、初日から校庭で遊ぶことは可能でしょう。それだけの経験、力は十分備えています。上級生の育ちにも好影響が期待できます。近所で群れて遊ぶことが減少している（ほとんどない）現状を乗り越える機会になると感じます。

上級生たちは一年生に関心をもっている（自分も一年生だった経験がある）ので、ここで「してもらう」経験をたくさんすることが、いずれ上級生になったときに「してあげる」「させてあげる」につながるのではないかと思います。その意味で、一年生が「できるようになってから」ではなく、「できないうちに」関わることが重要です。

つぶやきながら…

算数の授業中です。教科書の中にある７つのものを探して、見付けたらその絵の上にブロックを置くという活動に取り組んでいます。みんな「りんごは７」「え？りんごは８だよ」「ブロックが足りないなぁ」などとつぶやきながら教科書の絵の上にブロックを置いたり、指で数えたりしています。７が見付かったら、他の数にも挑戦していきます。

畑の肥料づくりです。土に触れて感じたことを、みんなが口々に話すことで、気付きが広がります。

子供の思いや意図

- どんな数があるのかな。
- ７つのものを全部見付けたいな。
- ７より大きい数にも挑戦してみたいな。

発揮された非認知能力

好奇心

探求心・挑戦意欲

教師の関わり方

- 一斉に授業のペースを合わせて学習を進めようとしていない。
- 児童が自然につぶやいた言葉に応答している。
- 教室の中を回りながら、個別に言葉掛けをしている。

方法としての教師

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

子供たちなりに、自分で納得したら前に進むということなのだと思います。つぶやきを「自分なりの思いや考えをもっている」と捉えると、子供のつぶやきを肯定的に受け止められるように思います。
「ん？」「あれ？」というつぶやきや思いは、思考を働かせ主体的に学習に取り組んでいるということだと考えられますね。このような他者のつぶやきから気付きを得ることで、子供たちは自分の考えを見直し、広げていきます。

「な」ってどうかくの？

アサガオの観察中です。B児が「『な』ってどう書くの？」とC児に聞きました。C児は「な？」と言った後にB児のプリントに『な』を書いてあげようとしました。うまくいかないので自分のプリントに「こうやって書く」と言って、書き順は合っていませんでしたが、ゆっくりと『な』を書いてみせました。

製作でやり方が分からないときは、友達のまねをしたり、友達にやり方を聞いて進めます。

子供の思いや意図

（書き方を聞いたB児）
- 書き方が分からないけど、先生には聞きづらい。
- 勇気を出して友達に聞いてみよう。

（書き方を教えたC児）
- 「な」は、たぶんこんな形だったな。
- 伝わるといいな。

発揮された非認知能力

コミュニケーション力（B児）

この後…

B児は「ありがとう」とC児にお礼を言ってまたプリントに記入を始めました。C児は、自分のプリントに書いた『な』の字を消してまた自分の作業に戻ります。書き方を教えたC児にとって、B児から「ありがとう」と感謝されたことが、字を書くことへの自信につながっていくでしょう。

楽観性（C児）

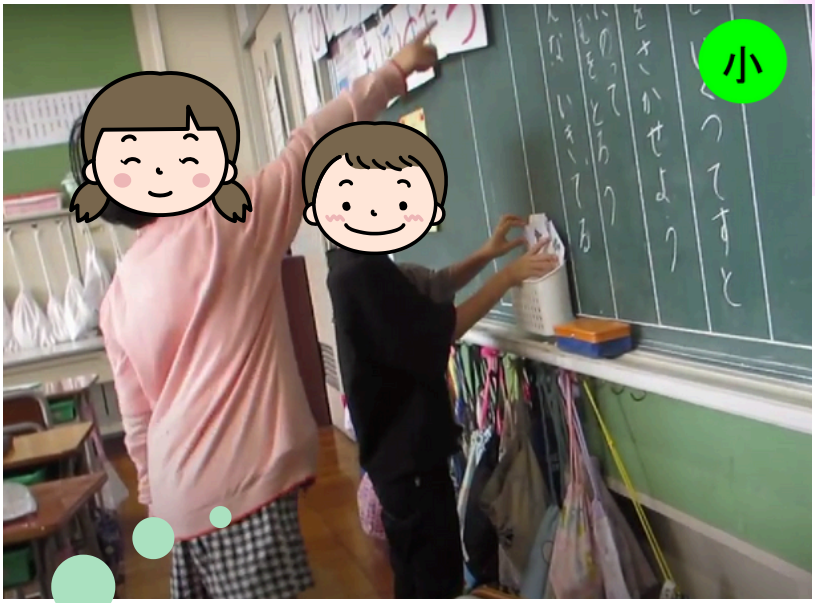
心の理解能力（C児）

共感性・思いやり（C児）

書き順については、書写の時間に丁寧に扱ってあげればよいと思います。それよりも「教えてほしい」と友達や先生に言えることを大切にしていけるとよいですね。「助けてもらった」という経験が、いずれ「助けてあげる」につながると思います。文字を書くから、この状況が生み出せるのです。最近は、低学年でもICT端末を使用した授業が多くありますが、パソコンの画面に向かっているだけでは生まれない、人との関わりの状況が生成されますね。

係じゃなくても

５分休みのことです。今日の時間割を掲示するための黒板の「教科」が間違っていることに気が付いた児童が、自分たちで時間割を貼り替えています。このクラスには時間割を貼り替える係が決まっていますが、二人はその係ではありません。



降園の準備が終わった園児が、みんなが使用したぞうきんを干しています。準備が早く終わった子が、自ら進んで取り組んでいます。

子供の思いや意図

- 時間割が間違っているな。
- 友達と一緒に今日の時間割を確認してみよう。
- 係ではないけど、時間割が間違っているときっとみんなも困るだろうから、直しておこう。

発揮された

非認知能力

自立心・主体性

協調性・協同性

係を決めてしまうとありがちなのが、「〇〇ちゃんが係じゃないのにやってる」という訴えです。助け合うことを阻害しているのかもしれません。係の仕事でなくても、自分たちで気が付いて行動するという営みから、自然と係活動、当番活動が生まれていくのが理想です。

教師が「係があって当然」と考えるのは危険です。園でどのように係が生み出されてきたのかを知る必要があります。生活する中で、必要感をもって活動し、結果的に係になっていく過程、一年生の「クラスの仕事をやってみたい」という憧れの気持ちを大事にしたいですね。

二人で運ぼう

掃除の時間です。一人の児童が机を持ち上げてみて「重い」と言って向きを変えて運ぼうとしますが、持ち上げることができません。そこにもう一人児童がやってきて、同じように一人で持ち上げてみますが、持ち上がりません。後から来た児童は、初めに運んでいた児童に「一緒にやる？」と声を掛け、二人で一つの机を運び始めます。

子供たちは自分たちで協力しながら掃除をしています。

子供の思いや意図

- 友達が机が重くて困っているな。
- 手伝ったら運べるかな。
- 一緒に運べば楽に運べそうだな。
- 声を掛けてみようかな。
- みんなで協力して掃除を早く終わりにしたいな。

発揮された非認知能力

共感性・思いやり

コミュニケーション力

協調性・協同性

子供たちが自然とこのような姿を見せる環境が大切なのですが、「机は二人で運ぶ」というルールをあらかじめ作ってしまう先生もいます。安全確保のため、また時間節約のため、よかれと思ってやっていることが、子供が自発的に行動する機会を奪っている場合があります。そのような場面は他にもいろいろあるので、学級のルールを再考してみるとおもしろいかもしれませんね。

子供たちは、困っている友達がいれば自然と助けるものです。先生が先回りをしてルールを決めてはいませんか？
教師が自然に表れた子供の姿を見取っていくことって大切なのだと思います。子供でも大人でもそうですが、自分がやったことを見てほしいという気持ちは誰にでもありますし、声を掛けてもらえると嬉しいですよね。

探しているのは…

朝、園庭に出るとたくさんの園児が夢中になって何かを探しています。タイルの隙間や、木の根本にたくさんいるようです。
げた箱の近くには、ヨーグルトのケースで作った虫かごがたくさん置いてあります。みんなが夢中になって探しているのはダンゴムシです。みんな自分の名前の書いてある手作りの虫かごをもって、今日もダンゴムシ探しに出かけます。

20分休みに大きなバッタを捕まえました。子供たちはどこにどんな生き物がいるか、よく知っています。

子供の思いや意図

- ダンゴムシをたくさん見付けたいな。
- 昨日はここにたくさんいたけど、今日はどうかな？
- 見付けたダンゴムシを先生やみんなに見せたいな。
- 友達より多くのダンゴムシを見付けたいな。

発揮された非認知能力

感受性　好奇心

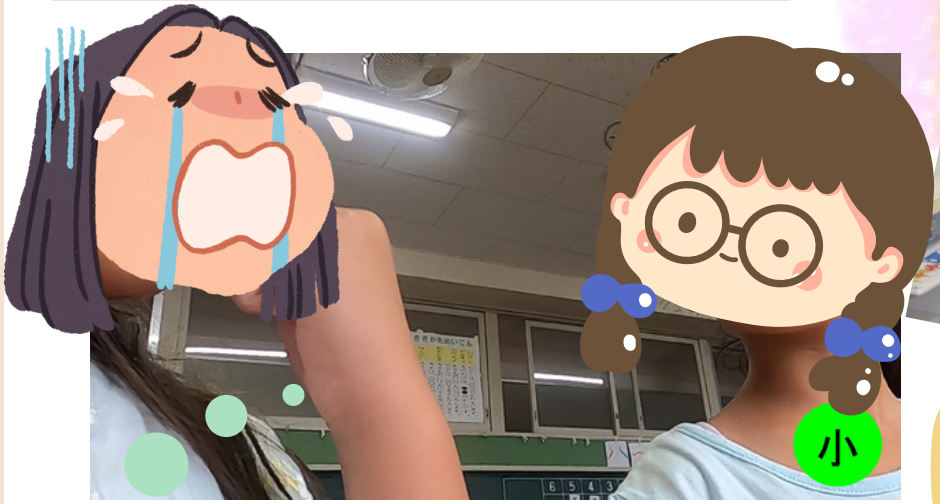
探求心・挑戦意欲

子供たちは虫探しの名人です。何かを見付けたときは、顔を近づけて、友達と頭を寄せて口々にものを言い、応答して発見を共有します。
一人一つのケースも用意しつつ、見付けたダンゴムシを入れる大きなケースなどがあると、もしかしたら「ダンゴムシの遊び場」のようなイメージの共有が起きるかもしれません。

休み時間に虫を探している一年生は意外とたくさんいます。教師が子供たちと一緒に遊ぶと、子供の「知らなかった顔」が分かります。
小学校でも、休み時間に使用できる虫かごなどがあれば、みんなで虫探しを始めたり、飼うかどうかでもめたりするかもしれません。生活科の学習にもつながりますね。

そんなときもあるよね

朝の準備の時間、教室でＤ児が泣いています。先生を見付けると、近くに来て先生の体に顔をうずめて激しく泣きはじめました。「どうしたの？」と聞くと、小さな声で「ママがいい」と言いました。「嫌なことがあったわけじゃないんだね」と先生が聞くとＤ児は頷きます。「学校が嫌なんじゃなくて、家でママといたいんだね」と再び先生が聞くとＤ児は泣きながら頷きました。心配した友達が集まり「どうして泣いているの？」と聞きます。先生とＤ児との会話を聞いていたＥ児が「ママがいいんだって」とみんなに言った後、Ｄ児の顔を覗き込み「そんなときもあるよね、私も園のときそうだったよ」と言いました。



泣いている友達の涙を拭いてあげています。友達が泣いていたらかけつけます。

子供の思いや意図

（泣いているD児）
- お母さんに会いたい。
- 先生に触れて安心したい。

（Ｅ児や周りの児童）
- Ｄ児がなぜ泣いているのか心配。
- 自分もそう思うことがあるな。
- Ｄ児に笑顔になってほしいな。

発揮された

非認知能力

心の理解能力

共感性・思いやり

教師の関わり方

- 泣いているD児を受け止めている。
- 無理に泣き止ませようとせず、寄り添っている。
- Ｅ児の発言に、「そうだよね、そんなときもみんなあるよね」と共感している。

方法としての教師

子どもが精神的に安心するためのよりどころ

思いに共感し共鳴する

Ｅ児は自分自身にも経験があるからこそ、寄り添うことができたのだろう。その際、園の先生は同様に「そんなこともあるよね」と受け止めてくれたのかもしれません。そのような園での経験がこの場面で生きているのだとすると、とても重要な場面だと思います。園で先生がどのように園児を受け止めていたのかを知ることで、小学校の指導が変わってくる可能性もあるでしょう。

カマキリがかわいそう

朝の時間、教室にある水道で、Ｆ児がカマキリの下腹部を水を張ったペットボトルに付けています。先生が「なんでカマキリいじめるの？」と言うと周りで見ていた児童が「黒いやつ（寄生虫）が川にさそいこんでいるんだよ」と言います。Ｆ児が何度もペットボトルの中に入れているうちに、カマキリは弱ってきた様子。先生が「誰もかわいそうだと思わないの？」と聞くと何人かが「思うよ」「かわいそうだよ」と小さい声で言いました。そのときＧ児が「かわいそうだよ」と大きな声で言って近くの雑巾にカマキリを乗せて外へ逃がそうとしました。みんなカマキリを逃がした方がいいと思っていたようで、Ｇ児に続いて外に出ます。Ｇ児はカマキリをそっと地面に逃がしました。先生はその後Ｇ児に「カマキリ助けてくれてありがとう。嬉しかったよ」と伝えました。

遊びの中でもめたときは、どうすればよいかみんなで話し合っています。

子供の思いや意図

（Ｆ児）
- カマキリのおなかから黒いやつが出てくるって聞いたぞ。
- 水に付ければ出てくるはず。みんなに見せて驚かせよう。

（周りの児童）
- 本当に何か出てくるのかな？気になるな。
- カマキリが嫌がってる。かわいそう。
- 注意したいけど、勇気が出ないな。

（Ｇ児）
- カマキリがかわいそうだから逃がしてあげたい。
- 誰も言わないなら、私が言わなきゃ。

発揮された非認知能力

好奇心（Ｆ児）

道徳性・規範意識（Ｇ児）

教師の関わり方

- 子供たちの思いを聞き、どうすべきか自分たちで考えるよう促している。
- Ｇ児が自分で考え、行動したことを認め、称賛する言葉掛けをしている。

方法としての教師

学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる

先生はやめさせたい様子ですが、自分からは注意せず、周りの子供たちに思いを聞いています。そんな中、見かねたＧ児が声を上げました。カマキリをかわいそうだと思う気持ちや、みんなが言えないことを自分が勇気を出して言おうとする行動は、Ｇ児の優しさや責任感の表れかもしれません。一方Ｆ児はカマキリの腹から寄生虫（ハリガネムシ）が出てくるという知識をどこかで得て、実際に試したかったのでしょう。この実験は失敗に終わりますが、一人一人にストーリーがあり、それぞれの内面を推し量ってみると様々な捉え方ができる事例です。

その乗り物には乗りたくない

校外学習で班ごとに遊園地で乗る乗り物を決めています。みんなで選んだ乗り物に、H児はやっぱり乗りたくないと言い始めました。その乗り物を楽しみにしていたJ児は、「おれの校外学習の楽しみがなくなった」と言って怒っています。班長は「でもHちゃんはそれに乗ると気持ち悪くなっちゃうんだって」と言っています。様子を見ていた先生が「じゃあどうすればいいかな」と言うと、みんなで考え始めました。

鬼ごっこで、一人の園児がずっと鬼をしています。先生が話合いタイムをとります。

子供の思いや意図

- 自分が選んだ乗り物にのりたい。
- 気持ち悪くなっちゃう子がいるなら違う乗り物にしようかな。
- みんなが楽しく過ごせる方法はないかな。

発揮された非認知能力

自制心

心の理解能力

共感性・思いやり

教師の関わり方

- 子供たちの話合いを聞いている。
- 最低限のルール（班で行動する、など）を伝えている。
- 「どうすればいいかな」と言って、子供たちの考えを引き出そうとしている。

方法としての教師

子供の目線に立つ

この後…

話合いの結果、最初に選んだ乗り物にみんなが乗っている間、H児ともう一人の児童は乗らずに近くで待っていることになりました。その代わり別の乗り物にその二人が乗るときは他の児童が待ちます。話し合った結果を先生に伝えに行きました。

「じゃあ、どうしようか」と先生が一緒に悩んだことで、子供から新しいアイディアが生まれてきたのではないでしょうか。「じゃあ、こうしようか」と先生から提案してしまうことがよくあります。一緒に考える、一緒に悩む姿勢は仲間になっていることの表れ、だから子供は一緒に考えるようになるのではないでしょうか。

かいこがたまごをうんだよ

朝、保育室で飼っている蚕の一組がたまごを産んだと、みんなが部屋の前に集まっている。先生は「本にカップをかぶせるとおもしろい卵の産み方をするって書いてあったから、カップをかぶせてみたんだよ」とみんなに話します。みんな興味津々に蚕の様子をのぞき込んでいます。「おもしろいって先生の鼻みたい？」と一人の園児が言うと、みんなが笑いました。

休み時間、枕木の下にたくさんのアリの卵を見付けました。興味津々にのぞき込んでいます。

子供の思いや意図

- 蚕の様子が気になるな。
- 匂いはするかな。
- 卵を産んだことを先生や友達に伝えたい。
- これからどんな風に育っていくのか楽しみだな。

発揮された非認知能力

感受性　好奇心

探求心・挑戦意欲

教師の関わり方

- 子供たちの発見を聞いて、一緒に様子を見ている。
- 卵を見付けた子供たちと一緒に「うわぁ！」と驚いている。
- 「こっちの方が早く交尾したのに、なんで卵を産まないのかなぁ」と悩んでいる。
- カップの置き場所について子供たちと一緒に考え、カップを移動している。

方法としての教師

子供の目線に立つ

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

子供たちの好奇心が、観察をしたり図鑑等で調べたりすることへの動機付けとなっています。教師が「何でも知っている」「導いてくれる」存在ではないところが子供たちにとって素晴らしい環境になっています。
「方法としての教師」を教師が子供たちの仲間となって実現しています。幼児期の内面的な好奇心や驚く心、感動する心などを大切にしたいですね。

園長先生のお話

今日は園で飼育しているオオムラサキの放蝶会です。園児は全員ホールに集まっています。園長先生は話を始める前に、紙の蝶の工作を園児の前で飛ばしました。ひらひら舞った紙の蝶を見て歓声が上がります。「それ作ったことあるよ」などの声が聞こえます。みんな園長先生の一挙手一投足をよく見ています。

小学校でも、全校集会があります。小学校の先生も、いろいろな工夫をしながら、児童に話しています。

子供の思いや意図

- オオムラサキが元気に飛び立ってほしいな。
- 園長先生は何を持っているのかな。
- 園長先生がこれからどんなことを話すのか気になる。
- 姿勢よく聞けるとかっこいいかな。

発揮された非認知能力

好奇心

道徳性・規範意識

教師の関わり方

- 子供たちの前に出ると、黙って紙で作った蝶を飛ばした。
- 膝立ちになって、山で蝶の幼虫を見付けたときの様子を演じながら再現した。
- 「静かにしなさい」などと言わずに、子供たちのつぶやきに応えながら話を進めている。

方法としての教師

学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる

表情、声色、強弱、緩急、身体性に気を配り、子供が「おもしろい」と感じる切り口から始めれば、子供は話を聞きます。しかし、話を聞かせたい内容、どうしても伝えたいことを厳選していくことは重要です。

子供たちが静かに聞けない話は、子供たちにとって他人事なのかもしれません。ソーシャルスキルとしての話の聞き方も大切ですが、まずは聞きたいと思えるような状況を作ることが教師の工夫のしどころではないでしょうか。

避難訓練は突然に

給食の準備中、大きなサイレンが保育室に鳴り響きました。「給食室から火災です。園庭に避難してください」という放送が入ります。先生は、放送を聞いてすぐに指示を出します。園児たちは、今日が避難訓練の日だとは知らされていません。少し驚いたり不安になったりする様子も見られましたが、すぐに先生の指示に従い、静かに防災頭巾をかぶり、園庭に出ました。

不審者対応の避難訓練です。この時間に避難訓練があることは児童も知っているので、落ち着いて行動しています。

発揮された

非認知能力

自制心

道徳性・規範意識

子供の思いや意図

- 大きなサイレンは少しこわいな。
- この放送がなったら、すぐに園庭に出るんだったな。
- 先生の話をちゃんと聞いていれば、心配はないはず。

方法としての教師

学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる

教師の関わり方

- 放送を聞いて、給食の準備をすぐにやめ、子供たちに指示を出している。
- 大きな声を出さず、落ち着いた口調で子供たちに話している。

「避難訓練」を「避難練習」と呼ぶ園もあります。子供たちは、「こういうものだ」と感じていると、落ち着いて行動しますね。最初に強い恐怖心や不安感を抱かせないように配慮し、経験を積み重ねていく中で、このような姿があらわれるのでしょう。

この園では、毎月避難訓練を行っているようですが、学校は学期に一度程度です。時間割であらかじめ示されていて、予定されたものを予定通り行うこともありますが、非常時にどう動けばよいのか、子供たちが自分たちで意識するために、行事化しない工夫も必要です。

運動会まであと何日？

みんなで今日の運動会の練習を振り返っています。「運動会まであと何日かな？」と先生が言った後、みんなでカレンダーを見ながら数えてみました。運動会の本番まではあと14日です。誰かが「まずい」とつぶやきました。先生が「あら、大変！なんでまずいの？」と聞くと「竹馬があるから」「たいこもあるよ」と何人かの園児が言いました。「みんな見せたいものがたくさんあるんだよね。練習頑張りましょうね！」と先生が言うと、みんな大きな声で「はーい！」と言いました。

小学校の休み時間です。
運動会で踊るダンスを自主的に練習しています。

子供の思いや意図

- 今日の運動会の練習はどうだったかな。
- 運動会まであと何日かな？
- 運動会でおうちの人に見せたいものがたくさんあるぞ。
- 練習を頑張れば、きっとできるようになるはず。

発揮された

非認知能力

自立心・主体性

楽観性

教師の関わり方

- カレンダーを幼児に見せながら、一緒に声を出して運動会までの日数を数えている。
- 今日の運動会練習の感想を一方的に伝えるのではなく、子供たちから言葉を引き出している。
- 「見せたいものがたくさんあるんだよね」と声を掛け、子供たち自身に見通しをもたせている。

方法としての教師

子供の目線に立つ

思いに共感し共鳴する

学校だと先生が訓練の成果を「見せる」場であるという意識になりがちです。子供が「見せたい」ことを運動会で見せるという方向性がとてもよいですね。子供たちはモチベーションが上がれば自分たちで主体的に進めていくので、すごく楽しいし、充実感があります。練習中にもめごとがあっても自分たちで何とかしようと考えます。このような体験こそ「行事で育つ」体験になると考えます。

ぎんなんばくだん

昼休みに先生と児童が校庭で遊んでいます。風がとても強い日だったので、たくさん銀杏が落ちています。子供たちは「これ何？」「銀杏だ！」と言って触ってみようとしました。午前中の生活科の授業で、校庭にある「秋に見付かるもの」についてみんなで話しているとき、銀杏の話題が出たところでした。とても強い風が吹きました。音を立てて銀杏がばらばらと落ちてきます。先生が「銀杏ばくだんだ！」と言うとみんな笑って「キャー」と声を上げて逃げました。落ちてきた銀杏を先生が拾ってみんなで匂いを嗅いでみました。「風で落ちたから臭くないのかもね」と先生が話すと「勝手に落ちると臭いの？」と児童が聞きました。先生は、「そうだね、もう少ししたら、臭くなるかもしれないね」と話しました。

赤い葉っぱをたくさん拾って集めました。園庭には季節を感じる素材がたくさんあります。

子供の思いや意図

- 何かたくさん落ちているな、これは何かな？
- 銀杏は臭いって授業中に誰かが言っていたな。
- 本当に臭いのか気になるな。

発揮された

非認知能力

感受性

好奇心

教師の関わり方

- 休み時間に一緒に遊びながら、児童が見付けた発見を、周りの子供たちと共有している。
- 授業で学んだことを、休み時間の遊びの中で子供たちと一緒に味わっている。

方法としての教師

子供の目線に立つ

思いに共感し共鳴する

学習が子供たちの生活の文脈の中にあり、かつ興味をもてる内容であれば、子供たちは自然に学び始めるものです。この事例から生活科が子供にとって身近で、楽しんでいる教科であるということが分かります。授業を、自分にとって大切なヒントやきっかけを与えてくれる「良質な刺激」と考えれば、この子供たちの行動は容易に納得できます。子供を信じて行動を見ていくと、教師がびっくりするようなことが展開されるような気もします。

朗読

園児は降園の準備のため、着替えを始めました。先生は「ロボット・カミイ」という本を読んでいます。絵は見せずに朗読をしています。みんな話を聞きたいようで、着替えながら静かに聞いています。話は途中でしたが、時間が来たので先生は「今日はここまで」と言って本を閉じました。

小学校での幼小交流活動の一場面です。本を読み始めると、みんな自然と静かになって聞き始めます。

子供の思いや意図

- 昨日の続きの話だな。今日の話はどんな話かな。
- このロボットはどんな姿なのかな。
- 早く着替えを終わらせちゃおう。
- もっと聞きたいな。

発揮された

非認知能力

感受性　好奇心

想像性

教師の関わり方

- 「静かに」「席について」などと言わない。
- 絵を見せずに、声色や表情で話を盛り上げている。
- 本を閉じた後に、子供たちと感想を言い合っている。

方法としての教師

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

小学校の国語では、学年が上がるにつれて挿絵が少なくなっていき、言葉から想像することが重要になっていきます。文字を追うより音声の方が気付きも多いので、絵本を見せながらの読み聞かせと同様に、絵を見せない朗読も、その手助けとして有効でしょう。

バス旅行の帰りに読み始め、「続きは明日」にします。それをきっかけに、いろいろな本を読むのもおもしろいでしょう。「もりのへなそうる」では、挿絵も見せないようにして、「へなそうる」の特徴が書かれている話を頼りに「わたしのへなそうる」を描いてみたこともあります。

ツチグリ

園児と児童が、公園で一緒に秋探しをしています。子供たちは次々に秋を見付けます。ある児童が「ツチグリだって」と言いながら、先生に見付けたものを見せに来ました。みんな「これはなんだ？」と集まってきます。先生はツチグリを触ると、「うわー！」と驚きました。みんなツチグリを触ってキャーキャー騒いでいます。先生は「だって、やわらかかったんだもん。びっくりした！たのしーい！」と笑いました。みんな笑っています。

子供の思いや意図

- 公園で見付けたおもしろいものを先生やみんなに見せたい。
- ツチグリって何だろう？ちょっと怖いけど触ってみたい。
- 先生にも知らないことがあるんだな。
- みんながまだ見付けていないものを発見したい。

発揮された非認知能力

感受性　好奇心　楽観性

教師の関わり方

- 子供たちと一緒に秋のものを探したり、拾ったりしている。
- 子供の発見に対して「いいもの見付けたね、くぬぎの帽子だね！」などと大きな声で反応をしている。
- 発見したことを教えた子供に対して「教えてくれたんだよね、ありがとう」と伝えている。

方法としての教師

子供の目線に立つ

思いに共感し共鳴する

子供を一人の人として尊重しているから、先生は正直に気持ちを伝えることができます。教師が自分に嘘をついて体裁を気にすると、正直な気持ちが出てきません。すべて子供は感じています。
校外学習の際に先生が、見回りだけの役割にならないよう、子供たちと一緒に活動し、驚きや喜びを共有したいですね。

クワガタの頭

園児と児童が、公園で一緒に秋探しをしています。一人の園児がクワガタの頭を見付けて先生に見せに来ました。先生は「のこぎりクワガタだね」と声を掛けます。園児は「でも死んじゃってるよ」と言いました。先生は「それも秋だから見付けられるんだよ。体はカラスが食べたのかな」と言いました。園児は持ってきた袋にクワガタの頭を入れました。

子供の思いや意図

- クワガタの頭を見付けて嬉しいな。
- この林で夏にはたくさんクワガタを見付けたよ。
- 死んじゃってるからちょっと残念だな。
- 先生や友達にも見てほしい。

発揮された非認知能力

感受性　好奇心

教師の関わり方

- 子供たちの発見を肯定的に受け止めている。
- 子供たちの秋の発見に対して、一緒に驚き季節を味わっている。

方法としての教師

子供の活動の意味を理解する

思いに共感し共鳴する

秋探しの目的は何でしょう。生活科の秋探しは、とかく「秋の作品作りのための材料探し」になってしまうことが多くあります。そのため、小学校の先生は「使えるもの」という視点で見てしまいがちです。しかし、子供の視点からすると純粋に「秋」に目が向いていて、夏にはなかったものを素直な心で見付けているのかもしれません。生活科を作品づくりや評価のための活動にしてしまうと、このような子供の『センスオブワンダー』を見過ごしてしまいます。季節は、匂い、風、空も含めて感じ捉えるということを「クワガタの頭」は、教えてくれています。

芝生の滑り台

芝生の広場の斜面を、園児や児童が転がったり滑ったりしています。腹ばいになって滑り始めた園児のまねをして、児童も同じポーズで滑り始めました。しばらくすると園の先生がブルーシートを出して斜面に敷き、大きな滑り台が完成しました。
子供たちは自然と順番に滑り始めました。「３、２、１、ゴー！」というみんなの掛け声でスタートします。ブルーシートがずれてきたら、みんなで直します。いろいろな滑り方に挑戦して、とても楽しそうです。

子供の思いや意図

- 芝生を滑るのは気持ちがいいな。
- あの滑り方はおもしろそうだな。挑戦してみよう。
- 滑りたい子がたくさんいるから、並んで順番に滑ろう。
- シートがずれていると、よく滑れないから早めに直そう。

発揮された非認知能力

好奇心　楽観性

協調性・協同性

教師の関わり方

- 芝生を子供と一緒にいろいろな格好で滑っている。
- 子供たちの様子を見て、ブルーシートを敷き、遊びが広がる環境を作っている。
- 「前向きで滑るの楽しそう！」などと、声を掛けている。
- シートを押さえたり、必要な言葉掛けをしたりしながら安全面に配慮している。

方法としての教師

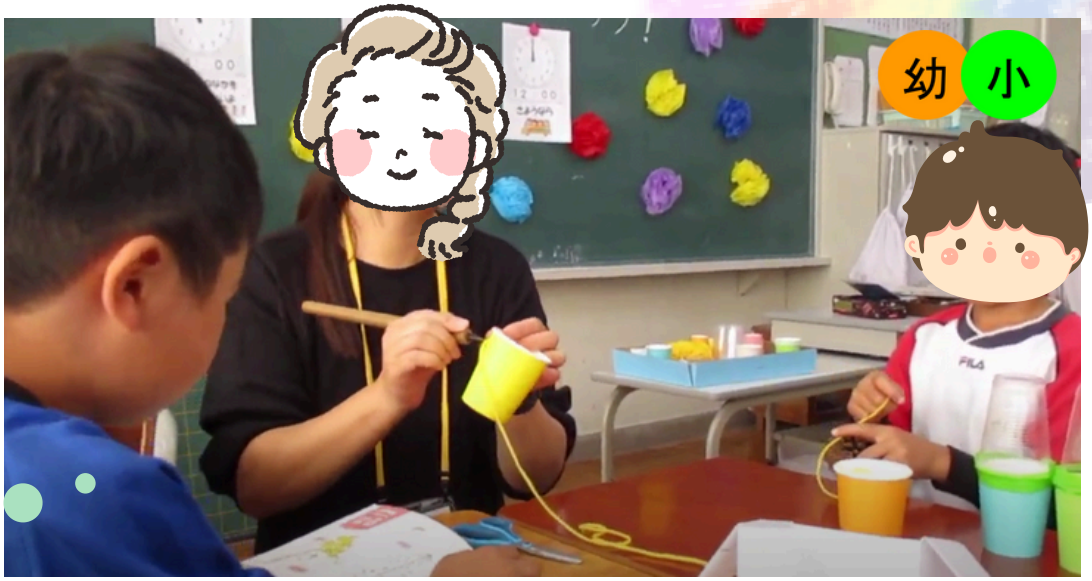
子供の活動の意味を理解する

子供の目線に立つ

五歳児と小学一年生は、機能的な発達はほぼ同等と言われるので、刺激し合える関係だと思います。斜面は子供たちにとってとても魅力的です。普通の滑り台とは違って広いし、自由な姿勢で滑れるし、子供たちがいろいろ工夫しています。いわゆる普通の滑り台だとできない滑り方を楽しめるのがいいですね。先生が細かく注意しなくても、互いに順番を守って楽しく滑る仕組みができあがっています。

さすがお兄さん

園児と児童が共同で秋のおもちゃを作っています。一年生の児童は、ペアの園児の紙コップに毛糸を通すのを手伝っています。小さな穴に毛糸を通して、結んだものを園児に手渡しました。園の先生はその様子を見ていて「さすがお兄さん」と言いました。続けて「お兄さんが手伝ってくれたんだね」と園児に言うと、園児は頷きました。その様子を学校の先生も笑顔で見ています。



子供の思いや意図

（一年生）
- 困っているから助けてあげたいな。
- できるか心配だけど、やってみよう。
- 「さすがお兄さん」と言われてちょっと恥ずかしいけど嬉しいな。

（園児）
- 自分ではできなかったけど、一年生はやっぱりすごいな。
- 次は自分でもやってみたいな。

発揮された非認知能力

楽観性（一年生）

自信・自尊心（一年生）

共感性・思いやり（一年生）

感受性（園児）

教師の関わり方

- 二人のやりとりを見守っている。
- 必要な場面で、道具を出したり、相談にのったりしている。
- 一年生の園児に対する関わりを見て、一年生を認める言葉掛けをしている。

方法としての教師

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

子供のよさや可能性を生かし、困っていることについては、どこを支えれば自分で進んでいけるのかをよく考えて支援していく、教師として基本的なことです。課題をするなど、表面的なことを「させる」のではなく、子供の内面が満たされることを目指すことが、結果的に目的以外の様々なことがらが伸びていくことにつながります。「できた」「わかった」という経験を、小さくても粘り強く重ねていくことで、少しずつ子供たちの内面が変化していく気がします。

長いマラカス

園児と児童が共同で秋のおもちゃを作っています。ペアの二人は、マラカスを作成しています。最初は一年生が一人でテープを貼っていて、ペアの園児は一年生に対して「上手にはってね」と言って、見ているだけでした。しかし、マラカスが少しずつ長くなっていき、倒れそうになると、園児は自然に手伝い始めます。押さえる人、テープを貼る人と分担して作業をしています。どんぐりをたっぷり入れた、長いマラカスが完成しました。一年生は「これは超うるさくなるぞ！」と言ってマラカスを振りました。園児が嬉しそうに「うるさ！」と言いました。その後園児も楽しそうに大きなマラカスを振りました。

子供の思いや意図

（一年生）
- どんぐりをたくさん入れて大きな音を出したいな。
- 紙コップもたくさんつなげて長くしたいな。

（園児）
- なんだかおもしろそうなものができあがりそうだな。
- 一人で作るのは大変そうだから、手伝おうかな。

発揮された非認知能力

想像性

協調性・協同性

一人でできることの外側には協力すればできることがあり、そこに学習課題を設定することで協働的な学びが生まれるという考え方があります。今回で言えば、遊びが発展していくことで一人ではできないことが自然発生的に生まれてくるという状況が作られていました。その可能性を考えて環境を構成することが、学びを生み出すうえで重要だと気付かされます。

ものや道具の数を減らしたり、活動エリアを絞ったりすると、「一緒にやる」が生まれるように思います。やろうとしていることが、分かりやすい作業であったことも要因の一つかもしれません。この知見は、授業・保育を構想する際に重要なポイントになってくると思います。

もうすぐ学校探検が始まるよ

園児と児童が共同で秋のおもちゃを作っています。K児たちはまつぼっくりとどんぐりを使ってやじろべえを作りました。「片付けをして、学校探検の準備をしておいてね」と先生がK児たちに伝えると、二人はてきぱきと片付けをしました。「時間になるまで待つんだよって園の子に言ったよ」とK児が先生に報告してきたので「もうすぐ学校探検の時間になるから、他のペアの子たちにも教えてあげてくれる？」と声を掛けると、K児は「もうすぐ学校探検が始まるよ」と言いながらそれぞれのテーブルを回りました。

子供の思いや意図

- 満足のいくやじろべえを作ることができて嬉しいな。
- 次は学校探検だったな。園の子と一緒に行くのが楽しみ。
- みんなはまだ製作をしているぞ。先生に頼まれたから、みんなに教えてあげなきゃ。

教師の関わり方

- 全体に大声で指示を出さずに、子供同士が声を掛け合って次の行動に移れるよう支援している。
- 次の活動に移る際には、時間で区切らず、活動の移行に余裕をもたせることで子供が気付いて行動できるようにしている。

発揮された

非認知能力

自立心・主体性

自信・自尊心

コミュニケーション力

方法としての教師

必要な人に対して
必要なときに
必要な援助を行う

友達同士の言葉掛けは、子供の自己決定を促すよい刺激になりますね。「学校探検が始まるよ」と言いまわっている姿が自然な流れでとてもよいと思いました。K児の言い方は片付けを促していないので、活動の邪魔になっていません。先生の「みんなに教えてあげて」という言い方がよかったのだと思います。もしここで、「みんなにも片付けるように言って」と伝えていたら、同じ空気にはならなかったように思います。

２０２５年２月　初版発行
発　行　群馬県総合教育センター
　　幼児教育センター
　　〒372-0031
　　伊勢崎市今泉町1-233-2
　　電話 (0270) 26-9203
　　（幼児教育センター　直通）